

令和5年度 川崎市工業用水道事業会計予算

(総則)

第1条 令和5年度川崎市工業用水道事業会計の予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第2条 業務の予定量は、次のとおりとする。

| | |
|---------------|----------------------------|
| (1) 給水事業所数 | 57社77工場 |
| (2) 年間総契約水量 | 188,570,520 m ³ |
| (3) 1日当たり契約水量 | 515,220 m ³ |
| (4) 主要な建設改良事業 | |
| ア 浄水施設費 | 1,184,024 千円 |
| イ 配水施設費 | 624,802 千円 |

(収益的収入及び支出)

第3条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

| | | 収 入 |
|-----|-----------|--------------|
| 第1款 | 工業用水道事業収益 | 7,894,551 千円 |
| 第1項 | 営業収益 | 7,705,305 千円 |
| 第2項 | 営業外収益 | 189,226 千円 |
| 第3項 | 特別利益 | 20 千円 |
| | | 支 出 |
| 第1款 | 工業用水道事業費用 | 7,668,431 千円 |
| 第1項 | 営業費用 | 7,569,473 千円 |
| 第2項 | 営業外費用 | 88,751 千円 |
| 第3項 | 特別損失 | 207 千円 |
| 第4項 | 予備費 | 10,000 千円 |

(資本的収入及び支出)

第4条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める（資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 1,943,258 千円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 177,307 千円、減債積立金 619,717 千円並びに過年度分損益勘定留保資金 1,146,234 千円で補てんするものとする。）。

| | | 収 | 入 | |
|-----|------------------|---|---|--------------|
| 第1款 | 工業用水道事業 資本的収入 | | | 1,149,157 千円 |
| 第1項 | 企業債 | | | 987,000 千円 |
| 第2項 | 補助金 | | | 162,147 千円 |
| 第3項 | 固定資産売却代金 | | | 10 千円 |
| | | 支 | 出 | |
| 第1款 | 工業用水道事業 資本的支出 | | | 3,092,415 千円 |
| 第1項 | 建設改良費 | | | 2,467,698 千円 |
| 第2項 | 企業債償還金 | | | 619,717 千円 |
| 第3項 | 予備費 | | | 5,000 千円 |

(債務負担行為)

第5条 債務負担行為をすることができる事項、期間及び限度額は、次のとおりと定める。

| 事 項 | 期 間 | 限 度 額 |
|-----------------------------------|--------------------|--------------|
| 令和5年度 原・浄・配水施設関連経費 | 令和5年度から 令和8年度まで | 14,824,861千円 |
| 令和5年度 土地借上料 | 令和6年度から 令和7年度まで | 9,033千円 |
| 令和5年度 自動検針 情報管理システム関連経費 | 令和5年度から 令和6年度まで | 180,907千円 |
| 令和5年度 上下水道局情報基盤 調達及び運用支援業務関連経費 | 令和6年度から 令和7年度まで | 5,512千円 |

(企業債)

第6条 起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

| 起債の目的 | 限度額 | 起債の方法 | 利率 | 償還の方法 |
|--------------------------|---------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 工業用水道 1 浄水施設等 整備事業 | 千円 617,000 | 政府資金、銀行その他から普通貸借または証券発行(他の地方公共団体との共同発行を含む。)による。起債の時期は当該年度とする。ただし、事業進ちよくまたは財政その他の都合により、全部または一部を翌年度へ繰越して起債することができる。 | 年5.0%以内 ただし、利率見直し方式で借り入れる資金について、利率の見直しを行った後においては、当該見直し後の年度における利率とする。 | 借入れの日から40か年以内(据置期間を含む。)に償還する。ただし、企業財政の都合により繰上償還、償還年限の短縮または本議決の範囲内で借換えすることができる。 |
| 工業用水道 2 配水施設等 整備事業 | 370,000 | | | |

(一時借入金)

第7条 一時借入金の限度額は、500,000千円と定める。

(予定支出の各項の経費の金額の流用)

第8条 予定支出の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

(1) 消費税及び地方消費税に不足が生じた場合における営業費用及び営業外費用の間の流用

(議会の議決を経なければ流用することのできない経費)

第9条 次に掲げる経費については、その経費の金額を、それ以外の経費の金額に流用し、またはそれ以外の経費をその経費の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

(1) 職 員 給 与 費 682,523 千円

(他会計からの補助金)

第10条 工業用水道事業助成のため一般会計からこの会計へ補助を受ける金額は、165,675 千円である。

(たな卸資産購入限度額)

第11条 たな卸資産の購入限度額は、8,900 千円と定める。

令和 5 年 2 月 1 3 日提出

川崎市長 福 田 紀 彦